

甲斐市総合計画審議会 第3回【要録】

日 時:平成27年10月8日(木)

午後1時30分～3時45分

場 所:新館2階 防災対策室

出席委員:【16名/25名】

※代理出席1名

欠席委員:立澤委員、大沢委員、上條委員、
中村委員、岩下委員、市川委員、
功刀委員、石川委員、坂田委員

1 開会

2 市長挨拶(市長欠席、代理小田切副市長)

皆さんこんにちは、副市長の小田切でございます。

本日は皆様方、ご多忙の中、本審議会にご出席賜りまして誠にありがとうございます。

本来市長がご挨拶申し上げるところですけれども、市長自らが会長を務めております会議が時を同じくして行われており、誠に申し訳ございません。私の方から一言ご挨拶申し上げます。

10月に入りまして日一日毎に秋の気配も強まって参りましたがけれども、10月の第一月曜日に皆様方新聞の方でご承知の通り、ノーベル賞医学生理学賞を甲斐市の隣の韮崎市出身の大村先生が受賞されました。

本日は地方創生の関係の方もご審議いただきたいのですが、私、この大村先生の受賞について地方創生の観点からも光明が見いだせる点を2つほど見つけました。

1つは大村先生のようなノーベル賞を受賞した方が大変身近な山梨大学という地方の国立大学の出身ということでございまして、地方の大学は大変厳しいと新聞の方でもおっしゃっていました。従来であれば優秀な学生というのは首都圏の大学へ進学してそのまま首都圏で就職するというので、地方は大変厳しいのですけれども、その流れに1つのくさびのようなものを打っていただける快挙じゃなかったかと思えます。

もうひとつは、奇跡の医薬品が隣の静岡県のゴルフ場の土壌で採取した菌から発見されたということです。我々の目指す地方創生というものも、答えが遥か彼方にあるのではなく、身近な足元にあるのかもしれない、我々、行政に携わる者はそれに気づけない、気づくことが出来ないだけなのかもしれないということでもあります。

本日そういったことから皆様方には建設的なご意見をいただき、この計画がより良いものとなるように改めてお願い申し上げまして私からの挨拶とさせていただきます。

3 会長挨拶

委員の方々にはお忙しい中ご出席いただき誠にありがとうございます。私事で恐縮ですが、県内企業と海外との動向を調べております。この9月に県内の金融機関の方や中小企業を応援している団体の方6名とインドネシアに行ってまいりました。主に県内の企業で、向こうで生産活動を行っている企業を3社ほど回ったり、あるいは他の団体を回ったり調査を行って参りました。ある晩、山梨県人会という組織の方が7名ほど集まってくださいます。その中に一人、甲斐市の旧竜王町のご出身の方がいて、やはり高校まで県内で、大学から東京へ行かれたとのことなのですが、本社が大阪にある海外輸出額が66%に及ぶメーカーで働いていらっしゃるということで、山梨県内にもこういった方が活躍できる場というのが必要かなと思いました。その方との会話の中で日本の新幹線売り込んで行け、中国と日本とが競争しているとのことでしたが、結果は残念な形となってしまいました。インドネシアの国民は日本製が良いが、政治のことなので分からないとのことでした。日本と外国との関わり方は色々あります。これまでの関わり方の他にも地域なり、会社なり、市民の皆さんなりの外国との接し方があって活力が生まれやすくなると思います。こうした中で外国と付き合いしていくということもひとつ大事な点かなと思って帰ってきた次第であります。

そういう話は、この会議の話のもう少し先の方でいろいろな計画の方で出てくるかもしれません。今日は第3回の基本構想の審議でございますけれども、引き続き活発な意見交換をお願いします。簡単ではございますけれども挨拶とさせていただきます。

4 案件

今回は9名の欠席ですが、審議会は成立しており会議を次第にそって進行いたします。

(1) 第2次甲斐市総合計画基本構想（素案）について

事務局から第1章から第4章について章ごとに説明。

(大山委員)

基本目標の1、「人づくりはまちづくり」というフレーズですけども、「〇〇は〇〇」という場合、後ろにある方が結論で、前にくるのはそれをつくりあげるものです。ニュアンス的に「まちづくりは人づくり」と、逆の方がいいのではないかと思います。

(事務局)

まさしくこの部分が我々の会議にも上がった話題です。元々この基本目標1というのが右側にあります「創甲斐教育による甲斐的文化の創造」であったものを、創甲斐教育大綱とかぶっていると捉えられることもあるということで変えました。この中で、教育が人を

作って、子どもたちが育って、今度は子どもたちがまちを創ってくれるという意味で、人づくりはまちづくりという表記にしたのですけれども、まさしく本部会の方でもまちづくりが先ではないかという意見もいただいております。一応、大山先生のおっしゃる通り、「まちづくりは人づくり」ではないかという意見も出たところですが、この審議会の中で皆さんの意見もお聴きしたいと思います。

(会長)

基本目標の「人づくりはまちづくり」という表現ですけれども、大山先生のように「まちづくりは人づくり」の方がいいのではという意見がありましたが、他の委員の方いかがでしょうか。

(中込委員)

私もまさしく同じことを思っていました。まちづくりはひとづくりの方がしっくりきますし、その方がいいのかなとも思いました。

(会長)

他の委員の方いかがでしょうか。

(事務局)

先程丸山も申しました通りこの内容は本部会議の方でも話題になり、この会議でも揉んでいただきたいと思っております。

(大山委員)

これも日本語のニュアンスですけれども、「〇〇は〇〇」の後ろが重要です。「まちづくりは人づくり」なんだと言われた方がしっくりきます。「人づくりはまちづくり」というと、まちづくりの方が重要でまちづくりの方が少し高飛車な印象になるかなと思います。あと一般的に都市計画の分野では「まちづくりは人づくり」という言い方をします。

(会長)

他の委員の方でございませんか。

(一條委員)

私は人づくりはまちづくりでも構わないかなと思います。基本目標の本文を拝見しますと創甲斐教育というのは甲斐市の子どもたちを育てることが将来のまちづくりをするだろうという希望が記載されていることからこのままでもよいのではないかと思います。

(会長)

いくつかご意見いただいておりますが、ここは教育文化ということで初めの入口が「人づくり」という言葉で入った方がより素晴らしいのではないかと。人づくりがまちづくりという言い方もあるのではないかとという意見もあったんですがいかがでしょうか。

(田中委員)

語呂的な部分もありますが、要は学ぶのは人ですよ。将来へのまちづくりのための人づくり、生涯に亘る学びの形が必要なんだという話。

甲斐市のまちづくりをするための人づくりという言葉にしてしまった方が、前にするか後にするかというよりはまちをつくるための人づくりと分かりやすいダイレクトな表現にした方がよいのではないのでしょうか。あとは語呂がよければ良いと思います。

(長倉委員)

私も田中委員と同じです。創甲斐教育の1つのキーワード的なものとして人づくりはまちづくりと置きたいのであれば、こだわってもいいとは思いますが、今回のものは、やはり理解しにくい。どちらになっても市民の方が同じような認識を得られないのではないのでしょうか。項目の目標1～3と見たときに、ここだけ並びが揃ってないのが気になります。ここだけ間に空白があり、浮いているような印象を受けます。

(会長)

原文のままか原文をひっくり返すか、まちづくりをするための人づくりという新しい意見がでたということを持ち帰って貰ってもよろしいでしょうか。

(石原委員)

自治会の代表としては、教育・文化ということにとらわれず限界集落とか消滅集落とかの問題を今後甲斐市で考えられるのであれば、原文のままの方がよりいいのかなと思います。

(事務局)

今、3つほど案をいただきましたので持ち帰って検討して、次の11月の中旬に答申の案になりますが、こういう風に案を変えたということで報告させていただく形になると思います。

(会長)

他に第4章についてご意見はありますか。

(大山委員)

地域で住民が自立しながら議会と一緒に頑張って色々成し遂げていくという事の中で、文章的に協働のまちづくりのニュアンスが弱いのかなという印象を受けます。

(事務局)

「基本目標 5 交流と協働による未来を拓く活力あふれるまち」では、産業と行政の関連施策を入れていく体系になっております。ここでは具体的な様々な団体との協働ということをやっておりますが、第2次甲斐市総合計画では、交流と協働のまちづくりが全体の基本軸になっておりますので、基本目標の 5 だけでなく、基本目標の 1~5 の全体として、交流と協働のまちづくりが展開されるという形でのイメージを持っております。そのため細かい 1 つ、1 つでは書いていないという事でございます。

(田中委員)

基本目標の 3 についてなんですけれども、景観の話から、山々だとか水という話が出ています。山と言えば川というのもあって、信玄堤の公園が市民の憩いの空間になっているとともに川から山を見る景観も素晴らしい。川については観光だけでなく、防災・安全という話もあります。

景観についてなんらかの形で川・河川について触れて頂いた方がいいのかなと考えております。

(事務局)

まさしく田中委員のおっしゃった通りです。甲斐市の西側を流れる釜無川は、日本最古の治水工法の信玄堤があり、富士川とを結ぶ一級河川です。先般の災害のこともあり、川・河川についての記述を検討したいと思います。

(会長)

基本目標の 5 番目の地域資源活用というところは政府の方も奨励している。前の章で地域資源について言及されているものの、その活用が達成できてないというのがある。地域資源と単純に書くんじゃなくて、水資源やバイオマス資源、農林業の資源、お祭りなど文化的な資源等といったものについて、市民が甲斐市にこういうものがあるんだともう一度気付くことが大事。ここでも地域資源にはどんなものがあるのかを書いてあっても良いのではないかと思います。

(事務局)

地域資源について、バイオマス以外にも水資源だとか農林業的なもの、文化的資源とか隠されていますので皆様方にもわかりやすく表現にして参ります。

(河西委員)

基本目標 1 の関係ですけれども、内容の説明がどうも学校教育や創甲斐教育の説明ばかりです。やはり大人も子どもも交流を通じて人づくりが行われると思います。ですから人々の交流、人と人が話し合い、意見を交わすことで大人も子どもも育つという内容のことを加えてほしいと思います。生涯学習の一言だけで片付けるのではなく、もっと内容を豊かにしていくといいと思います。

(事務局)

この部分につきましては、創甲斐教育という 1 つの計画に囚われないように我々も表現を変えてみたんですけれども、担当と話をしながら表記の内容については検討していこうと思います。

(会長)

皆様からご意見をいただきましたので甲斐市総合計画基本構想につきましては、この素案を基に委員の皆様から出た意見の検討を行って最終案の作成をお願いしたいと思います。なお、次回の第 4 回審議会において事務局から第 2 次甲斐市総合計画の基本構想の最終案及び答申書案を提出いただきまして、内容の確認を行い、答申を行いたいと思います。

よろしければ、次の案件に進みます。

甲斐市人口ビジョン及び甲斐市まち・ひと・しごと創生総合戦略について事務局より説明をお願いします。

(2) 甲斐市人口ビジョン及び甲斐市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)について

事務局から説明。

(会長)

ありがとうございました。甲斐市人口ビジョンの素案と甲斐市総合戦略の素案についてご説明をいただきました。甲斐市人口ビジョンについては 2060 年の目標人口を設定しているんですけれども、その推計などについて意見していただき、また、甲斐市総合戦略の素案についても各委員から意見をいただきたいと思います。

(高柳委員)

交流と協働による活力あるまちづくりという総合戦略の 4 つ目の題目は変えた方が良くのかなと感じました。

(事務局)

総合戦略の全てが総合計画の基本目標とリンクしているという訳ではなく、総合計画の中からいろいろな計画を抜いて4本柱にするというイメージです。

総合計画の「交流と協働による未来を拓く活力のあふれるまち」と総合戦略の「交流と協働による活力あるまちづくり」の2つが似ていて分かりづらいのではないかという指摘を受けて、総合戦略の「交流と協働による活力あるまちづくり」という目標の再検討をいたします。

(河原委員)

総合計画と総合戦略をリンクさせるというのは良いと思いますが、具体的な施策項目というのがかなり広い範囲に及んでいると思います。戦略的な取組や重点的な取組があり、仮に1つ取りかかるにしてもかなり長期間の取組というのが必要になってくるのかなと思いました。さらにこれを5ヵ年計画でやる場合の優先順位やアクションプランをどのように考えていますか。

(事務局)

説明不足で申し訳ありませんでした。まさしくこれだけのものをやると大分お金がいる訳ですけども、戦略的な取組も重点的な取組も総合計画の事業として総合戦略の中で実行していきます。

地方創生担当大臣の発表の中で新型交付金については、総合戦略の中で位置づけを行うものとするというフレーズがあります。これまでの国庫補助金などの対象以外のものでも、事業がまちづくりや人口対策に関わるものであれば、総合戦略に位置付ければ新型交付金の対象となるというような発表です。

この総合戦略の中で積極的に取り組むものが戦略的な取組ということで、この5ヵ年間に集中して行い、現在も先行事業として取り組んでおります。新型交付金を狙う意味で、現在補助金の対象外の市単独で行っているような事業でも、まさしく今後の人口問題対策に影響がでるんじゃないかというものは、重点的な取組として上げています。

(田中委員)

質問が2つと、最後に感想を述べさせて下さい。先ほどの人口ビジョンの47ページの次が52ページになっていますがこれは落丁ですか？それとも52ページで間違いないですか？また、もう1点は総合戦略の5ヵ年計画というのは平成27年1月から平成31年12月31日ですか？4月から3月の年度ですか？

それから感想としては先ほどの河原委員と同じになってしまうのですが、やるぶんにはどうやったらできるのかという具体的なアクションプラン、行動計画というのがあるとい

いのかなというのが感想になります。

(事務局)

48～51 ページがないのは敢えて抜いているからです。人口ビジョンについて県からの数字を使うと人口推計が右肩上がりになってしまい、その数字が独り歩きしてしまうのを防ぐため、敢えて落丁ではなく抜いています。

2つ目の質問の計画期間については、総合戦略というのは地方自治体で作るもので法的な縛りはありません。本来であれば年度表示、27年度から31年度になるのですが、实际的に甲斐市においては27年度国の補正予算について予算要求を貰えて26年度から着手しているものもありますので、敢えて年度を取った、“年”で標記をさせて頂いております。

あと先ほどのアクションプラン等の内容についてですけども、甲斐市において今から敢えて新しく事業展開計画を5年間作ろうというのは無理があります。ただ、そもそも甲斐市には総合計画がありまして、創甲斐教育大綱、都市計画マスタープラン、子ども・子育て支援事業計画などの個別計画があります。甲斐市の総合戦略というのはその中から人口対策等において効果的な施策事業について戦略的に5年間で取り組む形になりますのでご理解ご協力をお願いします。

(長倉委員)

まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標3に、「結婚希望があるひとが結婚でき」という表記があるが、戦略の内容は既に結婚をしている人を対象にしたものしかありません。ここは5ヵ年計画に入れないのであれば、この標記は必要ないと思うのですが、先ほどの人口ビジョンの9ページを見ると婚姻に係わる甲斐市の状況で、男性の31.8%が未婚、女性の場合で17.5%、2000年に比べて2.1倍に上昇しているとあります。晩婚化・非婚化が甲斐市の社会問題になっているということが人口ビジョンにも示されています。総合計画の基本構想の素案にも若い世代の結婚・子育ての希望をかなえるとあり、ここにも結婚の記述があります。結婚したくてもできない人たちの対策に関して、甲斐市として5ヵ年計画に入れるつもりなのか、入れないつもりなのかそこが疑問に思ったところです。

(中井委員)

同じ意見です。人口が増えない、出生率が減るという話をしていましたが、結婚した人があまり子どもを産まないのも、それを支援しようというのがありまして、もうひとつが若い人で結婚志望がない、結婚したいんだけど出会いがないといった未婚の問題があると思います。アンケートの方でも出会いがない等は上位に来ております。昔は、お見合いや紹介をしてくれる人がいましたが現在はほとんどいません。結婚を支援するような施策というのもあってもいいのではないのでしょうか。甲斐市だけでなく隣町等と連携して進めていってはどうか。もしくは結婚をしたいがお金がなくて無理だという人に関

しては融資をする等、未婚者に対して結婚を支援する制度を社会的に整備した方が良いのではないかと思います。

(会長)

お二人方から結婚を支援する政策をとったらどうかというご意見を承ったのですが、いかがでしょうか。

(事務局)

まさしくこちらでも議題に出ていまして、関係各機関等に我々からも要望をしています。我々も婚活の支援につきまして検討を考えております。

(深澤委員代理)

既存の財源を使って戦略を立てるという視点というのではないのでしょうか。既存の国のインフラですとか既存の財源を使ってUターン・Iターンにつなげるという視点を盛り込めるのであれば、入れたらいいのかなど。また、パーソナル・サポート・センターの事業を国と甲斐市が連携して就職支援などを行っていったらどうでしょうか。現に自立支援なんかは行っています。

(事務局)

まさしく国の支援を活用することによって人口問題対策ができると思います。よろしければ担当からご連絡いたしますので、国の厚労省との事業展開があったらぜひご教示いただきたいと思います。

(三井委員)

甲斐市で考えているバイオマス事業の規模はどれぐらいですか。

(事務局)

これまで甲斐市の環境課が担当しているバイオマス推進計画というのがありました。実際に行われているのが給食残渣を活用した液肥の製造、その他公共施設の屋根を活用したソーラー発電事業や一般家庭の太陽光発電の助成制度といったものです。今回は甲斐市全体としてバイオマス産業都市を目指そうという構想を環境課で策定して、農林水産省にバイオマス産業都市に選定していただけるよう手続きを行っている最中です。バイオマス発電施設とありますけれども、まだはっきりした施設規模といったものではなくて、甲斐市の中で発電事業を検討しながら活性化させようというところです。今のこの段階では構想を策定して、構想に基づいてこの5年間で今後の展開を計画していくということで、ご理解をお願いします。

(大山委員)

この国の地方創生、人口増に対して 5 年間でなかなか結果を出すのは時間的にも難しいと思います。それから総合戦略の中で交流と協働による活力あるまちづくりが少ないような気がします、これから増やすことが出来るなら増やした方がいいと思います。

また、国が成果目標の管理を言っていますが、これまで活動を行ってきた成果がうまく上がってなかったりするものを続けていくよりも、冒険かもしれませんが新しい芽が出そうなところに力を入れてみるのもありだと思います。5 年先を見据えて、というより、今から新しい実質的な動きを作っていくことが必要だと思います。

(事務局)

確かに今後は新しい事業をどんどん進め、新しい事業に支援するというような取組をしているところであります。

ただこの計画において触れておかないと交付金の対象にならないという可能性もありますので、どんな形で交付金をとっていけるか戦略を組んでいく必要がありますので、今のようなお話を心がけて検討したいと思います。

(中井委員)

人口流入の創出の施策として、戦略的な取組としては空き家の紹介しかないように書かれています。県でも取り組まれているが、県内の空き家が多いのは非常に過疎地で、交通の便が悪く、バリアフリーがなされていない家が多く、かなり改修をしないと住めないとか、村のコミュニティが崩壊しかけている、住んでも職場と距離があるなどかなり厳しい状況を抱えていると思います。甲斐市のような住宅都市だとしても築年数がだいぶ経っているはずで。

高齢者が住まなくなった空き家など住宅地の中の空き家や中古市場について公的な施策を出し、活性化させるということをやってはどうでしょうか、新しく宅地を開発することなしにやれるし、県外から移住する人にとっても、かなり安く住宅を求められることになります。そういった東京圏含めた移住したい人に資格を設けて、公的に中古市場を紹介する等といったことを検討されてみてはどうでしょうか。

(事務局)

これらに関しては我々の方でも動いております。甲斐市の空き家バンク制度については旧敷島地区・双葉地区の山間地の古民家の開放を行い、都内などから週末遊びにくるというのをやっていました。昨今では甲斐市全体で空き家バンクの取組を行い、条例改正などを行い、使っていない空き家を空き家バンクに登録しませんかという取組を行っています。

また、自治体単位で空き家がないか調査を行っており、今年度中には甲斐市全体の空き

家の状況が分かるというような状況です。

今年度国勢調査を行っている中で、調査員の方々が実際に歩いているため、両方の面から調査を行っています。あとひとつ空き家バンク制度につきましては山梨県宅地建物取引協会の方と協定を結んでおり、市の情報を得た方が取引をしやすいように取引については宅建協会の方に依頼するというような状況です。

あわせて移住定住セミナーを行ってきました。これまでは市が持っていた物件を紹介していただけだが、市内の宅建協会のメンバーの方にお願いをし、不動産屋さんにも情報提供をしてもらいながら不動産業としての PR、合わせて市としての PR というような形で取り組ませて頂いております。この他に意見がありましたら委員の方よりご提案いただければと思います。

(三井委員)

私も 10 年前、20 代前半の時に転職をしたが苦労した思い出があります。人を募集したところで甲斐市内に働く場所があるのかと疑問です。オープンに募集は出さず、つながりが入ってきているところが多いように思います。農業だけでなく、工場など色んな募集、就職の場を紹介できれば良いなと思いました。

(事務局)

我々も甲斐市の移住相談を行った時に、甲斐市の勤め先はどこですかという問い合わせがまずあります。特に若い、定年を迎える前の方が移住をされる場合、「勤め先がありますか」というのは大分聞かれております。我々の対応としましては日々ハローワークと直接連絡をとり就労情報をいただきながらそれを持って説明に行っていますが、今後も引き続きハローワークと連携をとりながら就労先を PR していくような対策をとりたいと思いますのでよろしくお願いします。

(会長)

人口ビジョンの目標とすべき数字に関して、もしご意見ございましたらお願いします。もしないようでしたら時間も経っておりますので閉めさせていただきます。今日は活発なご意見ありがとうございました。

5 その他

(事務局)

以上で本日の案件は全て終了致しました

今後の予定でございますが総合計画の基本構想につきましては本日の審議会の意見を取りまとめまして、10 月中旬に議会の方に報告をさせていただきたいと思っております。この報告の結果を持って基本構想案の策定を行いたいと思っております。この策定案につきましては後日、

委員の方々に送付致しますので、よろしくお願い致します。

次回の審議会につきまして11月上旬を予定しております。会長からもお話がありましたとおり、第2次総合計画基本構想の最終案及び答申案を提示致します。本審議会の中で答申案の確認を行い、市長への答申をお願いしたいと思います。総合戦略・人口ビジョンにつきましても次回の審議会にて、取りまとめたものを発表させていただきますのでよろしくお願い致します。事務局からは以上です。

6 閉会

これをもって第3回甲斐市総合計画審議会を終了致します。